



学校だより

第9号ジャカルタ日本人学校
令和5年(2023年)1月6日
校長 緒方克行
TEL: 021-745-4130

末子配付

めざす子ども像

あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願いいたします。

2023年が明けました。今年は子どもたちとどんな活動を生み出せるか、楽しみにしています。

さて、昨年12月にジャカルタ日本人学校で育んでいく子ども像について、ワークショップを行いました。本校は、幼稚部から中学部まで11年間の教育活動が行われます。そこで育むべき子ども像とはどのような姿なのか、どのような資質や能力を身に付けていくのかについて意見交流を行いました。

参加者は、社会の代表として大使館や維持会(企業)の方々、保護者代表としてPTA本部役員の方々、幼稚部から中学部までの教職員が体育館に集い、11グループに分かれ、それぞれの立場から意見を出し合いました。会の冒頭では、維持会の方から社会に出たときに必要な力として「聞く力」が不可欠であるとお話がありました。ワークショップでは、まず本校の子どもたちの「強み」と「弱み」を出し合い、「強み」をさらに伸ばし、「弱み」を克服するにはどんな資質・能力を育むことが大切なのかについて議論しました。

ワークショップの時間は50分程度取っていましたが、あっという間に時間が過ぎました。

出された意見を吟味すると、いくつかのキーワードが浮き上がってきました。編入生とすぐに人間関係を作ったり、インドネシアの文化を受け入れたりすることができる「多様性」をすでに兼ね備えている子どもが多いことや、自ら判断し行動するという「自主性」がもう少し育ってほしい、などです。

学校の教育活動というのは、授業で教科書の内容を押さえるだけではありません。行事もばらばらに存在するわけではありません。目指す子ども像を一つの軸として皆さんで共有し、それに向かって進められるものと考えます。

今回のワークショップをもとに、本校で育む子ども像を図表化し、お示ししたいと思っています。そこで、「多様性」や「自主性」を育むためには、日々どんな教育活動を進めていくのが良いか、常に念頭におきながら取り組んでいきます。そして、お示した子ども像について、これからも議論を続けると共に、その時、その子に何が必要なのかを考えていきたいと思っています。

